



### 33 爽竹桃 山本森之助

一面

大正三年(一九一四)  
 油彩・キャンバス  
 五九・四×四四・二

山本森之助(一八七七―一九二八)は生涯アトリエを持たなかった画家と言われ、写生旅行の旅先で見た景色を描き続けた。つねに西洋の新しい美術思潮に大きな影響を受けてきたわが国の洋画家のなかでは珍しく、画風の変化の少ない山本であるが、本作は印象派風の点描表現と忠実な写生を組み合わせたすぐれた外光表現によって描かれている。大正三年(一九一四)八月から九月にかけて広島県の鞆の浦を旅した際の写生に基づいており、燦々と降りそそぐ真夏の日差しを受けた爽竹桃の赤い花と、緑から青へと変わる海の色の対比が一際鮮やかである。完成するとすぐに翌月開催された光風会第三回展に出品され宮内省買上となった。このように近景から遠景へと光を受けて変化する水面をとらえた作品には、明治四十一年(一九〇八)の第二回文展で三等賞を受賞した《曲浦》(東京国立近代美術館蔵)、翌年の第三回文展で二等賞を受賞した《濁らぬ水》(静嘉堂文庫美術館蔵)などの代表作があり、それらは山本が新たに見いだした風景の美しさであった。

山本は長崎で料亭を営む家に生まれ、上京して明治美術学校を経て、東京美術学校で黒田清輝に学んだ。結成されて間もない白馬会第二回展から出品を始め、文展では第一回から受賞を重ね、審査員もたびたびとめた。明治四十五年(一九一〇)に中澤弘光、三宅克己らと光風会を設立、風景画の第一人者として知られた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzōkan